

## 二位じゃダメなんですか？

横 田 法 子

奨励者紹介[よこた・のりこ]

日本キリスト教団草津教会牧師

草津キリスト教学園信愛幼稚園園長

食事を共にしていた客の一人は、これを聞いてイエスに、「神の国で食事をする人は、なんと幸いなことでしょう」と言った。そこで、イエスは言われた。「ある人が盛大な宴会を催そうとして、大勢の人を招き、宴会の時刻になったので、僕を送り、招いておいた人々に、『もう用意ができましたから、おいでください』と言わせた。すると皆、次々に断った。最初の人には、『畑を買ったので、見に行かねばなりません。どうか、失礼させていただきます』と言った。ほかの人には、『牛を二頭ずつ五組買ったので、それを調べに行くところです。どうか、失礼させていただきます』と言った。また別の人は、『妻を迎えたばかりなので、行くことができません』と言った。僕は帰って、このことを主人に報告した。すると、家の主人は怒って、僕に言った。『急いで町の広場や路地へ出て行き、貧しい人、体の不自由な人、目の見えない人、足の不自由な人をここに連れて来なさい。』やがて、僕が、『御主人様、仰せのとおりにいたしました。まだ席があります』と言うと、主人は言った。『通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来て、この家をいっぱいにしてくれ。言っておくが、あの招かれた人たちの中で、わたしの食事を味わう者は一人もいない。』

(ルカによる福音書 14 章 15—24 節)

### スタートラインに立つ

牧師と共に幼稚園の園長をしています。施設長として必要があり、先日防火管理責任者講習を受講してきました。講師の方が導入として「指差し確認」について話されました。「指差し確認」の目的は、「思い込み」や「思い違い」、「うっかり」によるヒューマンエラーの防止です。思わぬ事故が起きてしまう原因にヒューマンエラーがありますが、「ミスを犯さないようにしよう」という精神論だけではヒューマンエラーは防ぎきれものではない。人間は対象物を自分が具現化したいように捉えたり錯覚したりしてしまうものゆえに対策を講ずる必要があるというのです。それで目に留まらなかったものを見るために指差し確認をするわけですが、確認対象を指差しして3秒数えながら凝視し見たことを言葉化する、そうやって自分が見たものとは違うものを見ようと意識化する、その上で確認するのが指差し確認です。そのような説明を興味深く聞きました。

以前、自分が撮影した録画を観て驚いたことを思い出しました。私は教会に集まった子どもたちが雪遊びしている様子を実況解説のように説明しながら、撮影していたのですが、その場にいなながら、しかも実況を伝えながら撮影していながら目に留まっていなかったこと、耳に入っていなかったことが随分あることに気付きました。子どもが私の横に寄ってきて話しかけているにも関わらず、意識が別のところに向いていて聞き流している場面さえある。目には映り耳にも入っていたはずなのに、録画を再生してみればじめて意識の下に置かれたのです。録画を見なければ私にとって全くなかったのと一緒のことでした。防火

管理責任者講習の講師のお話を聞きながらそのことを思い出し、確かに人間は自分本位に物事を見たり認識したりしているのだらうと納得しました。同じ出来事、同じ場面に直面していても、隣にいる人と同じように見えていたり、聞こえたりするわけではありません。よく見ているつもりでも見ていないこと、気付いていないことがあります。見ようとしなければ目に留まらず、見抜こうとしなければ意識もせず、したがって考えることもなくスルーすることがあるということです。あるいは自分本位に物事を捉えたり判断したりして自己完結している。気付かない側面に目を留めようとする、その時にはじめて私たちはスタートラインに立てるのかもしれませんが。どんなスタートラインか。それは自分の言動、生き方を主体的に選び取るスタートラインです。

聖書はいわば指差し確認を促す書物です。示した聖書の場面は、まさに指差し確認の促しとして私は受け止めました。「神の国で食事をするとほんとに幸いなことでしょう」と言った人はこの場面に至る前、イエスと共に食事をし、神の国の宴会について語らうのを聞いています。そのレスポンスで「神の国で食事するとほんとに幸いな事でしょう」と言ったのですが、先ほど言ったこと聞いてましたよねえ、聞こえてなかったのでしょうかねえ・・・と、あきれてツツコミをいれたいくなるような見当はずれのレスポンスなのです。それでイエスはおさらいのようにたとえ話を始めるのです。見当はずれのことを言っていることにさえ気付いていない人に、イエスは指差し確認を促したわけです。何がずれているかというこの人は自分をカヤの外に置いていて、どこか距離感というか上から目線というか、自分もその宴会に招かれているという自覚、私はその食事の席に招かれてほんとに幸いでしょ、という自らの喜びはないのです。その人たちは招かれてよかったですねという他人事です。

### たとえ話が問うこと

イエスは神さまの救いを神の国の宴会や食事の席に例えますが、イエスの時代以前、旧約聖書にもみられる伝統的な表現です。たとえ話として語るだけではなく、実際に共に飲み食いをしたり、イエスが食事に招いたりする場面が度々記されています。生きる糧を得るのもやっとのギリギリのところで生きている人たちがいました。抑圧や差別を受けて精神的に生きるよすがのない人たちもいました。そういう人たちにとっては、食事の席に招かれたり食事を分かち合ったりすることは、正に共に生きようという呼びかけであり、あなたは明日も生きられるという宣言に他ならなかったと思います。自分には生きる術がない、生きていく価値もないと希望を持たずにいた人々が、イエスとの出会いや交わりを通して、自分の命も神に見捨てられていない、自分の命もかけがえのないものとして愛されていると実感した。生きることが望まれ期待されているという希望を得る体験をした。その実感をした人は自らも、誰も孤立させない共に生きる群れの一人となる生き方に踏み入っていったのです。新約聖書には、イエスに従ってみたら、無理だと諦めていたことが無理ではなかった。胸を張って生きることをあきらめなくてもよい。共に生きられる。そういった驚きと喜びの体験が綴られています。次の世代に伝えずにはいられなかった証言、「遺言」です。聖書は「The Bible」ですが、旧約新約をそれぞれ分けると Old Testament と New Testament です。Testament には遺言の意があります。自分に与えられた恵み、与えられた幸いを次の世代にも分かち合いたい、その思いで聖書は綴られ託されてきました。「神の国で食事をすると人は幸いですね」との発言は他人事で、自分が受けたギフトを次の世代にも伝えたいというような証言ではありません。神の国の食

事に招かれることで自分の人生に何がもたらされるのか、何を達成することが出来るのかが理解できていないし、それに参与し分かちあう者になろうとも思っていない。なぜなら自分は既に勝ち組だと思い込んでいるからです。神の祝福を受けている自分が改めて宴会に招かれる必要はないと思っているからです。イエスが語る神の国の豊かさや喜び、幸いをわかっていないのです。誰かを排除したり差別したりする側にいたとて、そのことに気を留められずにいるから認めることも改めることもない。実は大切なことが目にも耳にも入っていないのだけれど、そうなっていることに気付かないままです。

イエスが語ったたとえ話にはドタキャンする人が登場します。当時、宴会の招きは二段階あったようです。まず前もって日程を示して招待しますが開始時間は正確に明示できず、当日準備が整った段階になって、始めますのでお越しく下さいと招集したようです。たとえ話のドタキャンは、いよいよ始まりますよ、という招きに対するキャンセルです。いざという段階になって自分の都合を天秤にかけて約束を反故にしたのです。ドタキャンの理由をみると、畑を買ったので見に行かねばならないとか、牛を買ったから見に行くとか、結婚したばかりでラブラブしたいからとか、確かにその人にとって大切なことかもしれませんが、自分本位の自己都合です。エゴイズムから神との約束を反故にして、招かれた宴会に背を向けています。つまり、他者に生かされ他者を生かす関係性から自分を切り離してしまって、自己完結、自己責任の世界に身を留めてしまう人間の姿が表わされています。たとえ話は社会から疎外された人を招き入れてもまだ席があります。それで誰でも良いから手当たり次第に、無理にでも連れて来ることを求めますが、客がないから体裁を整えるためにかき集めるというわけではありません。ここには神の計画による定めが暗示されています。その気が無い人も、自分に必要がないと思っている人も、資格がないとされている人も、資格なしと自覚している人も、地位も名誉も血縁も問わず、社会の弱者か強者かも抑圧される人かする人も問わず、どこの出生か出自か、それらも全く問わずに神は救いの宴会に招き入れようとされている。そのことが示されています。その招きを他人事している人に対しても、です。

### どこに目を注ぐのか

さて今日の説教題ですが、2009年当時に参議院の蓮舫議員がスーパーコンピューター京の開発予算について言及した出来事を思い出しながら付けました。京の後継スパコンの富岳が新型コロナウィルス飛散の解析に貢献したとの報道を見て、スパコンの計算スピードの速さが生活に直結するところに応用されているケースをはじめて認識して2009年の騒動を思い出していたところ、富岳の開発に携わった研究者が蓮舫議員の二位ではだめなのか、との問いをとりあげて、蓮舫議員の問いは世界一を目指す必要性を国民に向けて説明する絶好のパスだったのに不発だったと書いているのを読みました。絶好のパスが送られながらも、蓮舫議員と研究者らは連携連帯とは真逆のところに向かいました。当時蓮舫議員に向けられたのはバッシングばかりだったと記憶しています。「二位じゃダメなんですか」は実はナイスアシストだったにもかかわらず、非難轟々で蓮舫議員は叩かれました。富岳の研究者は、当時シュートすることなく不発に終わってしまったのは、研究者のうちで「世界一を目指す」ということがスローガンとなり目標となってしまったゆえと指摘していました。何のために世界一の必要性があるのか、解析速度世界一の能力を何に役立てようとしているのか、主眼がそこに置かれていたら、蓮舫議員の問いを受けてスパコンの応用分野や用途を説明し、世界一を目指して開発する必要性をアピールできたはずだし、そう

すべきだったとの論考でした。アジアを旅する旅人が、職人が石を積んでいるのを見て「何をしているのですか」と質問したという話を聞いたことがあります。一人目の職人は「建物の土台を造っています」と答え、次の職人は「寺院の土台を造っています」と答えた。最後の人は「人々が集い、祈りをささげる場を造っています」と答えた。石を積む行為自体は一緒でも、自分が何に参与しているのか、石を積む作業によって何がもたらされるのかに意識が向いているかどうかで答えがかわる、意識は行為にも現れ出でしよう。

私は同志社大学出身ですが、ある先輩が同志社の徽章、下に向かう三角形のマークを「底辺に向かう者の群像」と表現しました。どのような立場でも、上昇志向であればなおさらに、社会の底辺と思われるところに目を注ぐ。その姿勢は聖書が示す真理を根底とした同志社建学の精神に即した姿勢だと思い「底辺に向かう者の群像」との表現に共感します。聖書は一方的に一つの正解を与えるのではなく「あなたはそれでよいのか」との問いとして迫り、その応答として主体的に生きることを促します。「あなたはそれでよいのか」との問いを受けるのはしんどい作業です。誰かを差別したり排除したり抑圧している自分を認めなければならないこともあります。けれども聖書にはもう一つ大切なメッセージがあります。あなたはあなたでよいという存在を肯定するメッセージです。聖書は「あなたはそれでよいのか」と「あなたはあなたでよい」、この一見すると相反するように思える二つのメッセージに換言できると私は思っています。いかなる人も神の国の宴会に招かれています。神が命を与えてくださったそれぞれの存在は貴いものとして愛され、期待されています。自分本位になりがちで目に留まらないこと、耳に入らないことだらけで、自分に都合よく物事を捉えて振る舞ってしまう私たちですが、その存在が否定されることはありません。根底のところ揺るがぬ存在の肯定があります。だから、受け入れがたい自分の姿、変えるべき自分に臆せず目を向けることができます。このチャペル・アワーは他の誰にも代えられないあなたが、そのあなたとして生きなさいとの呼びかけを受けて新たに生き方を選び直すチャンスの時です。立ち止まって聖書の問いかけに触れ、指差し確認してみましょう。

2023年6月14日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録